

## 令和5年度 第8回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和5年8月27日（日）9時50分～13時30分
- 2 場 所 国際芸術センター青森（ACAC）、八甲田憩いの牧場
- 3 出席者 子ども会議委員8名、子どもサポーター3名、事務局3名
- 4 活動内容 (1) 国際芸術センター青森の見学  
(2) 棒パン体験

### 5 開催概要

今回も各グループに分かれて活動を行う予定でしたが、みんなで活動したいという意見から Improve A. B. C. グループが推し隊の活動に参加することになり、全員で同じ活動をしました。

#### 国際芸術センター（ACAC）の見学

全員集合し、マイクロバスで国際芸術センターに向かいました。ACAC は、十和田市民図書館の設計も手掛けた有名な建築士の安藤忠雄さんが造った、コンクリート造りで黒い鉄板のメッキが特徴的な建物です。

今回は、毎月第4日曜日に開催している「見えない建築ツアー」に参加し、ガイドさんから ACAC が造られた経緯や野外ステージ、水のテラスなどの説明を受けながら野外彫刻を散策しました。

散策の中で、新町商店街のレリーフも造った鈴木正治さんの作品である「八甲田山」に「GODIVA」と刻まれていることに小学生委員が気づき、みんなでチョコレートの企業名がなぜ刻まれているのか不思議に思っていると、ガイドさんから企業名の由来である「ゴダイヴァ夫人の伝説」が元になって刻まれていることを教えてもらいました。そんな伝説があることを知らなかった委員も多く、説明を聞いて驚きました。

ACAC は建物の屋上に草や畑があったり、野外作品が木々にまぎれていたり道路に交じっていたり、石のような作品があったりなど、自然と一体になるデザインが数多くありました。すべての野外彫刻を見ることはできませんでしたが、最後の質問コーナーで、水のテラスの水は森にある調整池から大学分と一緒にろ過された浄水が流れてきていることや、ACAC の総建築費について、黒い鉄板は最近の安藤建築には使われていない技法により亜鉛メッキが施され波紋のような模様に見えること、展示棟には冷房設備がなく雪を活用した冷房システムがあることなどを知りました。

また、「エナジー・イン・ルーラル」という展示も行われていたので、あわせて見学しました。水のテラスに大城真さんの「Solar call」という、ソーラーパネルにより一定の電気がたまるとベルが鳴る作品が展示されていました。これは天候によって音が鳴る間隔が変化し、曇りだと間隔が長く、強い日差しだと短くなり、日没後には沈黙する作品で、その日の天候や日時で変化を楽しめる作品で面白かったです。ツアー中は周りの森の音や虫の音、Solar call のベルの音が何度も聞こえていました。

このほか、展示棟にあった大和田俊さんの「Give me ingredients, I' ll mix it」という作品では、2、3 万年前の石灰岩からつくった炭酸水を実際に飲むことができました。普段購入できる炭酸水に比べると炭酸が弱く、独特な苦みも少なかったので小学生でも一気飲みできるほど飲みやす

かったです。実際に飲むことができる作品があるとは思ってもいなかったのもとても貴重な体験をすることができました。



### 棒パン体験

ACACの見学を終え、棒パンを焼くために八甲田憩いの牧場に向かいました。

8月16日の合浦公園のごみ拾いで拾った松ぼっくりを着火剤として活用し火起こしにチャレンジしました。火をつけるのが難しく、松ぼっくりから想像以上に煙が出てきて驚きました。うちわで扇いで炭が白くなるまで空気を送りましたが、いつまで扇ぎ続ければ良いのかわかりづらく、火起こしの難しさを感じました。

パン生地は、前回、やわらかめと弾力のある生地の2種類を押し隊のメンバーが作ってくれたので、委員それぞれ食べたい方を選んで自分で焼いて食べました。外側を焦がさずに中まで火が通るように、くるくると回しながら焼きましたが、火に近づけすぎて焦がしてしまう委員がいたり、綺麗な焼き目がつくように器用に竹を遠くしたり角度を調整して丁寧に焼いている委員もいて、それぞれ性格が出て面白かったです。棒パンを初めてやったという委員には経験のある委員がアドバイスしながら、青森市ならではの食文化である棒パンを楽しむことができました。

トッピングは、年代に関わらずマーガリンが一番人気でした。

